

令和7年度 1学年国語科 年間指導計画

単元	配当時間数	学習活動・評価規準など	備考
朝のリレー	2	1 詩を音読する。 2 詩を読んで想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。 3 詩の特徴を生かして音読する。	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) 【態】 音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
1 学びをひらく はじまりの風	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 2 作品の全体像と場面ごとの心情を捉える。 3 心情の変化を整理する。(課題2) 4 整理した内容を基に話し合う。(課題3)	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】 場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合うようとしている。
1 学びをひらく [聞く] 情報を聞き取り、要点を伝える	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 情報を的確に聞き取り、要点を伝える必要がある場面を挙げる。 2 二次元コードの音声聞き、必要な情報をメモに取る。(やってみよう①) 3 ①のメモを基に、相手に伝える内容を整理する。(やってみよう②) 4 情報を的確に聞き取るためのポイントを確かめる。 ・「情報を的確に聞き取るために」で、情報を聞き取るときと、聞き取った情報を伝えるときのポイントを確認する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) 【態】 聞き取った情報を進んで整理し、学習課題に沿って、要点を伝えようとしている。
1 学びをひらく 言葉1 音声の仕組みや働き	1	1 導入の課題に取り組み、音声の仕組みや働きについて関心をもつ。 2 母音と子音について理解する。 3 音の高さ・強さについて理解する。	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) 【態】 声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。
1 学びをひらく 話の構成を工夫しよう	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 スピーチの材料を集める。 2 話の構成を考え、練習する。 3 スピーチの会を開く。 4 学習を振り返る。	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ) 【態】 話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。
1 学びをひらく 漢字1 漢字の組み立てと部首 漢字に親しもう1	1	1 導入部分を読み、漢字の組み立てに興味をもつ。 2 偏旁冠脚など漢字を組み立てている部分について理解する。 3 部首について理解する。 4 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 5 P40「漢字に親しもう1」の問題に取り組む。	【知・技】 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
2 新しい視点で アイコンは大きな根?	2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 文章の中心となる部分を捉える。(課題1) 3 段落の役割について考える。(課題2) 4 筆者の説明のしかたについて話し合う。(課題3) 5 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) 【態】 文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。
2 新しい視点で ちょっと立ち止まって	3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・P50の吹き出しを参考に、共感・納得したところや発見・気づき、疑問点等を挙げる。 2 文章の構成に着目し、要旨を捉える。 3 文章の構成に着目し、序論・本論・結論の役割を考える。 4 考えたことを伝え合う。(課題3)	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) 【態】 進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
2 新しい視点で 情報整理のレッスン 比較・分類	1	1 学習の目的を理解する。 2 情報を比較・分類する方法を確かめる。 3 問題1～2に取り組む。 4 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【態】 情報の整理のしかたについて積極的に理解を深め、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
2 新しい視点で 情報を整理して説明しよう 発見したことをわかりやすく書く	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 情報を集め、整理する。 2 構成を考える。 3 文章にまとめる。 4 交流する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) 【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】 集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書くようとしている。
2 新しい視点で 言葉2 指示する語句と接続する語句	1	1 導入の課題に取り組み、指示する語句や接続する語句について関心をもつ。 2 指示する語句について理解する。 3 接続する語句について理解する。 4 学習したことを日常につなぐ。	【知・技】 指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。((1)エ) 【態】 今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
3 言葉に立ち止まる 空の詩 三編 [書く]詩の創作教室	3	1 三つの詩を音読する。 2 詩について、感じたことを交流する。 3 詩の情景や表現の効果について話し合う。 4 最も印象に残った詩について発表する。(課題3) 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確に考えている。(C(1)エ) 【態】 詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
3 言葉に立ち止まる 言葉3 さまざまな表現技法	1	1 導入の例を読み、表現による印象の違いを挙げる。 2 P68「比喩(たとえ)」を読み、比喩の種類による印象の違いを考える。 3 P69「反復」「倒置」、P70「体言止め」「省略」「対句」を読み、表現技法によるリズムの違いや効果について考える。	【知・技】 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) 【態】 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。
3 言葉に立ち止まる 比喩で広がる言葉の世界	2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 2 文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉える。 3 比喩について理解を深める。(課題2) ・P74の図を言葉で説明し、比喩を使うかどうかでどんな違いが出るかを考える。 4 生活への生かし方を考え、伝え合う。(課題3) ・身の回りにある「比喩」や、「比喩の発想」が生かされた言葉を見つけて発表する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 比喩などの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) 【態】 進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。
3 言葉に立ち止まる 文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう 文法1 言葉の単位	1	1 P75の導入や教材文を読み、言葉のまとまりについて考える。 ・例文を音読し、間を取った箇所を確認する。 2 P242「文法1 言葉の単位」を読む。	【知・技】 単語の類別について理解している。((1)エ) →文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
3 言葉に立ち止まる 語彙を豊かに 心情を表す言葉	1	1 学習の目的を理解する。 2 印象に残った出来事について、そのときの気持ちをひと言で表す。 3 気持ちを表す言葉を集める。 4 気持ちにぴったりの言葉を選ぶ。 5 学習を振り返る。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) 【態】 今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。
情報×SDGs 情報収集の達人になろう コラム 著作権について知ろう	3	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 調べるテーマを決める。 2 図書館やウェブサイトで情報を集める。 3 情報を読み取る。 4 行動宣言をまとめる。 5 著作権について知る。 6 学習を振り返る。	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】 引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書くようとしている。
いつも本はそばに 読書を楽しむ	1	1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。 2「ポップ作り」、「読書会」、「読書記録」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。 4 ポップ、読書会のメモや記録、読書記録を提出する。	【知・技】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) 【態】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。
いつも本はそばに 本の中の中学生	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1「本の中の中学生」の作品を読む。 ・考えていることや悩んでいることが似ている登場人物、友達になれそうな登場人物はいないか、探しながら読む。 2 気に入った作品とその理由を友達と共有する。 ◇学校図書館や地域の図書館に行って続きを読んだり、同じ作者が書いた別の作品や、他の作家が書いた同じテーマの本を読んだりするなど、実際に本を手取るように促す。 P90「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。	【知・技】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かめなかにしている。(C(1)オ) 【態】 進んで文章を読み、理解したことに基づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

4 心の動き 大人になれなかった弟たちに……	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 2 描写に着目して登場人物の心情を捉える。 3 題名のもつ意味について考える。(課題2) 4 表記に込められた、作者の意図を考える。 5 思いを伝える朗読会をする。(課題3) 6 学習を振り返る。	【知・技】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) 【思・判・表】 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】 登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。
4 心の動き 星の花が降るころに	5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 「私」を中心に作品の内容を押さえる。 ・時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意して、作品を幾つかの場面に分ける。(課題1～1)) ・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表などにまとめる。(課題1～2)) 3 場面や描写を結び付けて内容を解釈する。(課題2) ・同じ物や場所が描かれている場面や描写を、図などを使って整理・比較し、どんなことが読み取れるか伝え合う。 ・「雪が降るように」のような比喩表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考える。 4 印象に残った場面や描写を語り合う。(課題3) ・解釈を基に、印象に残った箇所とその理由をグループで述べ合う。 5 学習を振り返る。 ・場面や描写の結び付きを図を用いて整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・複数の場面や描写を結び付けて読むと、どんなことが見えてきたか、自分の言葉でまとめる。 ・読み取ったことを踏まえ、この後、作品がどう続いていくかを考えて、簡潔に書く。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。 【思・判・表】 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 【態】 進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
4 心の動き 項目を立てて書こう 案内文を書く	3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 情報を整理し、構成を考える。 ・案内する事柄を決め、相手の立場に立って、伝える必要がある情報を考える。 ・身の回りの案内文なども参考に、項目を立てて情報を整理し、構成を考える。 2 案内文を書く。 ・P117「案内文の例(地域の人に)」を参考に、案内文を書く。 3 学習を振り返る。 ・互いの案内文を読み合い、意見や感想、工夫されていると思った点を伝え合う。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】 必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。
4 心の動き [推敲]読み手の立場に立つ	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 読み手の立場に立って、案内文を推敲する。 ・P11「案内文の例(地域の人に)」を参考に、P118の地域の人に出す体育祭の案内文の下書きを下段1・2の指示に沿って書き改める。 2 書き換えた案内文について、伝えようとする内容が正確に、わかりやすく書き表されているか、友達と話し合う。 3 学習を振り返る。 ・案内文の推敲で、どんなことが大切かまとめる。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) 【思・判・表】 「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) 【態】 粘り強く文章を推敲し、今までの学習を生かして案内文を書き改めようとしている。
4 心の動き 言葉4 方言と共通語	1	1 導入の課題に取り組み、地域による言葉の違いについて関心をもつ。 2 教材文を読み、方言と共通語の違いを理解する。 ・語句・表現・文法表現・発音の違いを知る。 ・共通語の必要性を知る。 3 P120「消滅危機言語」を読み、日本における消滅危機言語について知る。	【知・技】 共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ) →共通語と方言の役割や特徴について理解している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。
4 心の動き 聞き上手になろう 質問で話を引き出す	2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 聞き方や質問のしかたを学ぶ。 2 二人一組で対話の練習をする。 3 学習を振り返る。 ・それぞれの立場から、気づいたことや考えたことを出し合う。	【知・技】 相手の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) 【態】 進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。
4 心の動き 漢字2 漢字の音訓 漢字に親しもう2	1	1 導入部分を読み、漢字の読みには「音」と「訓」があることを理解する。 2 「音」と「訓」の歴史や性質を理解する。 ・複数の読みがある漢字や熟語について考える。 3 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 4 P126「漢字に親しもう2」の問題に取り組む。	【知・技】 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
5 筋道を立てて 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 2 文章の構成と内容を捉える。 3 文章の構成や展開の効果を、根拠を明確にして考える。 4 文章を読んで、考えたことを話し合う。(課題3) 5 学習を振り返る。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) 【態】 文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
5 筋道を立てて 思考のレッスン1 意見と根拠	1	1 P138上段の文章を読み、意見の根拠を明確に示すことの大切さを理解する。 2 適切な根拠について考える。 3 意見と根拠の結び付きを考える。 4 学習を振り返る。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【態】 根拠の客観性や理由づけに無理がないかを積極的に検討し、学習課題に沿って、意見と根拠の関係について理解を深めようとしている。
5 筋道を立てて 根拠を明確にして書こう 資料を引用して報告する	5	1 課題を決め、調べる。 2 構成を考える。 3 レポートを書く。 4 レポートを読み合い、交流する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) 【態】 根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
5 筋道を立てて 漢字に親しもう3	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	【知・技】 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
5 筋道を立てて 文法への扉2 言葉の関係を考えよう 文法2 文の組み立て	2	1 P147の導入や教材文を読み、言葉の関係について考える。 ・わかりやすく伝えるためには文節どうしの関係を理解する必要があることに気づく。 2 P246「文法2 文の組み立て」を読み、「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」を理解する。	【知・技】 単語の類別について理解している。(1)エ) 【態】 今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。
5 筋道を立てて 聴きひたる 大阿蘇	1	1 朗読音声聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 ・繰り返し表現や、繰り返ししながら変化していく表現などに注目する。 ・新出漢字を調べる。 2 詩の朗読を聞いて感じたことや考えたことを交流する。	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) 【態】 進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
6 いにしえの心にもふれる 古典の世界 音読を楽しむ いろは歌	1	1 P152「古典の世界」を読み、3年間の古典学習について見通しをもつ。 ・和歌や物語、随筆、漢文・漢詩など、3年間でさまざまな古典作品に触れることを知る。 2 P154「いろは歌」を音読する。 ・リズムを味わいながら繰り返し音読する。 ・三段目の現代語訳と関連づけながら読む。	【知・技】 ・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ) ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) 【態】 積極的に古文を繰り返し音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。
6 いにしえの心にもふれる 蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 古典の文章を音読し、現代の文章との違いを確かめる。 2 現代語訳やP169「古典の言葉」を参考に、現代の文章との違いを確かめる。(課題1～2)) 3 作品の内容を読み取り、古典の世界を想像する。(課題2) 4 学習を振り返る。	【知・技】 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) 【態】 進んで古文を音読し、今までの学習を生かして描かれている古典の世界を想像しようとしている。
6 いにしえの心にもふれる 今に生きる言葉 [書く]故事成語を使って体験文を書こう	3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 漢文を、リズムを味わいながら音読する。(課題1) 2 本文を読み、故事成語について理解する。 3 自分の生活と結び付けて考える。(課題3) 4 学習を振り返る。	【知・技】 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】 「書くこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 【態】 積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。
7 価値を見いだす 「不便」の価値を見つめ直す [書く]筆者の主張に対する自分の意見を書こう	4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読し、内容を捉える。 2 本文を要約し、筆者の主張について検討する。 3 筆者の主張に対する自分の意見を書く。(課題3) 4 学習を振り返る。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) 【態】 必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。

7 価値を見いだす 思考のレッスン2 原因と結果	1	1 P186の例題や問題1から、原因と結果を抜き出し、どのようにつながっているかを整理する。 2 P187の例題や問題2から、原因と結果のつながりに無理がある例を確かめ、パターン別に整理する。 3 学習を振り返る。 ・話の筋道を理解したり、筋道を立てて書いたり話したりする際には、原因と結果の関係に気がつけることが大切だということを確認する。	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【態】 今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。
7 価値を見いだす 漢字に親しもう4	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	【知・技】 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
7 価値を見いだす 【話し合い(進行)】 進め方について考えよう	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 二次元コードの動画を視聴し、「やってみよう」①②に取り組む。 →二次元コード「話し合いの様子」 2 P190fよりよい話し合いするために」を読み、話し合うときに効果的な工夫について理解する。 →P272「語彙ブック」(思考するときの言葉) 3 学習を振り返る。 ・話し合いをよりよく進めるために、どのようなことに気をつければよいか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】 進んで話題や展開を捉え、学習課題に沿って、話し合いをよりよく進めるために気をつけることについて、考えをまとめようとしている。
7 価値を見いだす 話題や展開を捉えて話し合おう グループで語り合い、ものの見方を広げる	4	1 話し合いの目的と話題を確認する。 2 自分の意見をまとめる。 ・自分の意見と、そう考える根拠をノートに書き出す。 3 グループで語り合う。 ・録画しながら、話題や展開を捉えて語り合う。 ・付箋を使って整理するなど、話し合いを可視化しながら進める。 4 話し合いを振り返る。 ・録画を視聴して話し合いを振り返り、効果的だと感じた発言などを共有する。 ・グループでの話し合いの結果を、代表者がクラス全体に報告する。 5 学習を振り返る。	【知・技】 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話し合いの話題や展開に沿って、互いの発言を結び付けながら話したり、自分の考えをまとめたりしている。 【態】 積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。
書写	20	硬筆 1 点画の組み立て方・変化・連続について実践を通して確認する。 2 筆順について、実践を通して、法則と意味を理解し、整った字形を書く。 3 古典作品「竹取物語」を楷書で書く。 毛筆 ・書初め ・楷書・行書の書き方	【知・技】 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書いている。 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書いている。 【態】 根気強く漢字と仮名のバランスを考え、これまでの学習を生かして、楷書や行書で文字を書こうとしている。